



富山市子ども読書活動推進計画(第二次) を策定しました

平成16年10月に「富山市子ども読書活動推進計画」を策定して5年経過したことから、国や県の二次計画を受けて、第二次計画を策定しました。

この計画は、公募委員2名を含めた8名の委員による2回の策定会議と、パブリックコメントに寄せられた多くの市民の皆様のご意見を反映して作ったもので、全文は当館のホームページ上で公開しておりますので、是非ご覧ください。

今回の第二次計画では、以下にあげた4つの基本方針のもとに取り組んでいきます。

- (1) 子どもの自主的な読書活動の推進
- (2) 家庭・地域、図書館、学校を通じた社会全体での取組の推進
- (3) 子どもが読書に親しむ機会の提供と諸条件の整備・充実
- (4) 子どもの読書活動への理解と関心の普及

次の表は、家庭・地域、図書館、学校における取組や重点項目、数値目標についてあらわしたものです。

(本館 若崎)

家庭・地域

【家庭に向けての取組】

- ・ 保護者、中・高校生、社会への啓発
- ・ インターネットを活用した情報発信

【保育所・幼稚園、児童館、子育て支援センター、保健所・保健福祉センター】

- ・ 環境整備
- ・ 保護者への啓発
- ・ 図書館の利用促進



図書館

【重点項目】

- ・ 児童サービスを専門とする司書の養成
- ・ 読書環境の整備

【数値目標】(平成26年度)

- ・ 児童図書蔵書冊数約29万冊⇒約31万冊
- ・ 読み聞かせボランティア活動の拡大
現在の113名⇒150名



学校

【重点目標】

- ・ 読書指導の充実と読書習慣の形成

【数値目標】(平成27年度)

- ・ 学校図書館標準 69.5%⇒100%

先進図書館をめざして「図書館司書専門講座」

今年6月8日から19日まで12日間にわたり、平成21年度図書館司書専門講座に参加しました。この講座は、文部科学省が都道府県や市町村立図書館に勤務する司書を対象に、司書としての力量を高めることを目的として毎年実施しているものです。

北は北海道、南は沖縄県から62名の司書が、東京都上野公園内にある国立教育政策研究所社会教育実践研究センターに集い、次のような主要テーマのもとに、図書館に関する最新の動向を学びました。

(1) 生涯学習社会における図書館

地域の活性化を促す情報拠点として、住民の課題解決及び地域の行政施策に関わる多様な資料や情報を収集、保存、提供するという、図書館が担う役割を再確認しました。

(2) 図書館の経営と運営

全国の図書館設置数は、年々増加しており、図書館1館あたりの貸出冊数も増加しています。しかし、資料費や専門職員である司書数は減少傾向にあります。また、日本は人口10万人当たりの図書館数が、G7各国の中で最下位です。このような状況を踏まえ、図書館の必要性を地域や行政に対して積極的にPRすることが重要になってきています。また、昨年改正された図書館法第7条の3に基づきこれからの図書館は、経営

評価を行い、改善点を探ることで、より効率的な運営をしていかなければなりません。

(3) 高度情報化社会における図書館

インターネットの普及により、個人間の情報格差が顕著化していることから、住民の情報や知識の入手を保障するという図書館の役割が一層重要になってきています。また、インターネットを通じた情報発信として、図書館のホームページのコンテンツの充実など、この分野におけるサービスの可能性が示されました。

(4) 豊かな図書館サービスの展開

住民の利用目的や地場産業を分析し、ビジネス支援サービスや生活支援サービス、多文化サービスといった、地域に根ざした新しいサービスの展開が望まれています。

このような貴重な研修に参加できたことに感謝し、ここで得たことを還元できるよう日々の業務に努めたいと思います。

(本館 瀬口)



いちおしライフライリー「介護の社会」



2000年4月、介護保険法の施行によって「介護の社会化」が実現しました。しかし介護を社会全体で支えていくという理念は今や崩壊しつつあります。高齢者が増える一方、介護の現場は深刻な人材不足という悩みをかかえています。日本人の老後は大丈夫なのでしょうか。

介護の現状を知り、介護の今を考え直す本を3冊紹介いたします。



『老老介護』
吉田 春樹/著
(PHP 研究所 2008)

本書の表題である「老老介護」とは、高齢者が高齢者を介護する状態のことです。今や80代の夫婦間、70代の子供が90代の親を介護するなど珍しくありません。日本の長寿化・少子化という現象からくるこの「老老介護」は世界にも例がなく、近い将来、政治や社会そして家庭にとって非常に大きな問題になります。

そして、「団塊の世代」もあと10年もすれば「老老介護」の当事者となり、それを待ち受ける政府の介護制度は心細く、日本の財政は、いずれ大変な状態になります。著者はこれら問題に対し、人生・経済の面から対策の必要性や方向性を論じています。



『介護現場は、なぜ辛いのか』
本岡 類/著
(新潮社 2009)

現役の作家である著者は、実家の母が倒れ、介護を目の当たりにしたことがきっかけで、ヘルパー2級の資格を取ります。そして、特別養護老人ホームの非常勤ヘルパーとして時給850円で働き始めたのですが、入居者は排泄が難しい人や、気分があつという間に変わる人など様々。ホームではマニュアルもなく連携作業もうまくいきません。しかし、介護現場が直面する最大の問題はお金と人手不足だと著者は指摘します。低賃金で激務をこなし心身をすり減らすため、離職率も高いのです。

介護の現場で働いた著者の体験を綴ったノンフィクションです。



『長寿大国の虚構』
出井 康博/著
(新潮社 2009)

急速に少子高齢化が進んでいる日本は、2014年には50万人もの介護労働力が不足すると言われていています。

そんな中、2008年8月、成田空港に総勢約200人位の若者が降り立ちました。彼らは日本政府が初めて正式に受け入れた外国人介護士・看護師たちですが、この制度も人材不足解消の切り札とは生り得ないと著者は説いています。この制度は「研修」・「就労」・「資格取得」の3つが柱となっており、3年間働いた後、難関である国家試験を受け、不合格の場合は帰国しなければならないというものです。

外国人介護士の働く現場を著者が国内外で取材し、介護の闇に迫ります。

(婦中 高田)

図書館資料いろいろ 笹津氏美術書コレクション編

八尾図書館ほんの森では、平成 16・17 年にわたり、八尾町出身の古美術商・笹津悦也氏より、1,085 冊の美術関連書の寄贈を受けました。その内、新規購入していたいただいた図書・DVD は、特設コーナーを設け、平成 18 年 4 月から公開しています。現在、個人所蔵分の資料の整理を進めているところです。

笹津悦也氏プロフィール

古美術店「壺中居」^{こちゅうきよ} 会長。笹津氏は昭和 24 年、18 歳で「壺中居」に入社。以来半世紀以上にわたり、その世界で活躍されています。創立者の広田不孤斎（八尾町出身）に見込まれ、まだ海外渡航が難しかった 20 代の頃から、アメリカ、アジア、中近東、

ヨーロッパ各地の美術館を巡り、美術品を鑑賞する眼と感性を養いました。

コレクション紹介

寄贈本 1,085 冊の内、全国の美術館で開催された展覧会などの図録が 606 冊、「東洋陶磁大観 全 12 巻」、「世界ガラス美術全集 全 6 巻」などの美術全集や単行本が 447 冊、DVD 作品が 32 点です。

中でも図録は、散逸しやすく後から入手し難い種類のものです。作品解説のほか巻末・関連資料には、幅広い分野の調査研究に役立つ文献が収録されています。小規模ながら興味深い図録も多く、足を運ばなかった展覧会を垣間見ることができます。

(ほんの森 富川)

レファレンスあれこれ

郷土の行事に関する質問をご紹介します

Q. 盆行事の「お精霊」^{しょうらい}とは、どのようなものなのか知りたい。

A. 「お精霊」は、先祖の霊を呼び寄せる意味の火祭りです。『富山民俗の位相』（桂書房 2002）や『とやまの年中行事』（富山県教育委員会 2008）を調べると、富山県中央部を中心に、8 月 13 日に行われていることがわかりました。川べりで「お精霊 お精霊」と叫びながら火のついた松明を回したり、川原にやぐらを組んで大火をたくなど、地域によってさまざまな違いがありました。

他に『習俗 富山歳時記』（巧玄出版 1973）や、『富山の祭と行事』（巧玄出版 1974）に掲載されている写真や図版も参考になります。

Q. 富山県内の獅子頭の写真が多く掲載されている資料を見たい。

A. 富山県は獅子舞の盛んな地域です。『富山県の獅子舞』（富山県教育委員会 1979）や、『とやまの獅子舞』（富山県教育委員会 2006）では、県内の各地域の獅子舞について、豊富な写真と共に解説されていました。

また、地域ごとに特化した資料として、『新湊の獅子舞』（荒木菊男 1995）や、『氷見の獅子舞』（小境卓治 2000）といったものもあり、その中でも『氷見の獅子頭展』（氷見市 1986）には、多数の獅子頭の写真が掲載されていました。

(本館 沖)

